様式２

番号 ＼ 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	104・数研	第１学年 第２学年 第３学年	数学・734 数学・834 数学・934	中学校数学１ 中学校数学２ 中学校数学３
取扱内容 （学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等）	○　数と式 第１学年では、つり合っている天秤に載っている角砂糖の重さを求める等式に数を代入して両辺を比べる活動、第１学年では、未知の２つの数量をｘ、ｙとして食パンと菓子パンの個数を求める活動、第３学年では、周の長さが決まっている長方形の面積と辺の長さの関係を表した方程式を立てて解く活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　図形 第１学年では、合同な三角形を敷き詰めて描かれた模様を観察し平面図形の移動の意味を考える活動、第２学年では、幅を変えられるフェンスの編み目の形から基本的な平面図形の性質を見いだす活動、第３学年では、直接には測定することが困難な樹木の高さを相似な図形の性質を利用して求める活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　関数 第１学年では、浴槽に水を入れた時間と水位の変化など伴って変わる２つの量を調べる活動、第２学年では、３㎝の高さまで水が入った水槽に水を入れた時間と水位の変化についてグラフを用いて調べる活動、第３学年では、斜面を転がるボールの転がった距離と転がり始めてからの時間の関係の表を用いて調べる活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　資料の活用 第１学年では、鹿せんべい飛ばし大会の歴代優勝者の記録をヒストグラムに表し、資料の傾向を読み取る活動、第２学年では、ボトルキャップを投げるとき表になる起こりやすさやさいころの１が出る割合を考える活動、第３学年では、英和辞典に載っている見出しの語の総数について母集団から標本を取り出し標本の傾向を読み取る活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　知識・技能の習得、活用、探究での対応 第１学年では、計算の結果がいつでも正の数になるものを考える活動、第２学年では、連続する３つの偶数の和が６の倍数になることを説明する活動、第３学年では、相似な２つの三角形の対応する辺の長さを考える活動など、補充的な学習活動が取り上げられている。			
内容の構成・排列、分量等	○　内容の構成・排列 第１学年では、２つの数量の等しい関係について符号を使った式で表す活動の後に、分かっていない数量を文字で表した方程式を解く活動を取り扱い、第２学年では、２直線が交わってできる角を調べる活動の後に、２つの三角形が合同になるための条件を考える活動を取り扱い、第３学年では、円周角の定理やその逆を使って図形の性質を証明する活動の後に、直角三角形の各辺を１辺とする３つの正方形面積の関係を調べる活動を取り扱うなど、系統的、発展的に学習できるよう工夫されている。 ○　内容の分量 第１学年～「数と式」は98ページ、「図形」は62ページ、「関数」は30ページ、「資料の活用」は22ページであり、総ページは276ページで、前回より約11%増となっている。 第２学年～「数と式」は48ページ、「図形」は62ページ、「関数」は34ページ、「資料の活用」は17ページであり、総ページは224ページで、前回より約12%増となっている。 第３学年～「数と式」は80ページ、「図形」は80ページ、「関数」は28ページ、「資料の活用」は13ページであり、総ページは280ページで、前回より約9%増となっている。			
使用上の配慮等	○　巻末に、身の回りの事象から数学を見いだしたり学習意欲を喚起したりすることができる「数学探検」を設ける（全学年）とともに、授業で切り取って調べたり組み立てたりして活用できるような作業用の厚紙を設ける（全学年）など、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　巻頭に、既習事項を確認することができる「クイックチャージ」を設けたり（全学年）、巻末に学習を深めることができる「ぐんぐんのばそうチャレンジ編」を設けたり（全学年）するなど、生徒が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○　導入に、「ですます調」の文章を用いるとともにキャラクターを活用して親しみやすくしたページを設けたり（全学年）、巻頭や本文中において、「NOTE」マークを用いノートをとる際の注意点を示したり（全学年）するなど、使用上の便宜が図られている。			
その他	○　北海道と関連のある教材は、「札幌の桜の開花日」など、３箇所取り上げられている。 ○　活字は大きくて見やすい色度を適度に抑えたものを採用するとともに、配色はカラーユニバーサルデザインに配慮するなど、工夫されている。 ○　重要事項は枠で囲んだり下線を引いたりして、学習の基礎となる概念の確実な定着を図ることができるようにするなど、工夫されている。			